

令和7年度 徳島市津田小学校経営グランドデザイン

子どもたちの現状と課題

- 明るく素直で、人懐こい。
- 興味をもつと、学習に意欲的に取り組むことができる。
- 何事にもまじめに取り組むことができる。
- 学力、体力の多極化傾向がある。(基礎基本の定着)
- 基本的な生活習慣が十分身につけていない子がいる。
(言葉づかい・あいさつ・生活リズム・清掃)
- 聞く・話すことが苦手な子がいる。
(話し合い活動・体験活動・読書活動の充実)
- 受け身的な傾向がある。
(生活への関心、挑戦のしかけ、主体性)
- 関わりが苦手だったり、自信が持てなかったりと自尊心の低い状況もみられる。(自己肯定感)
- 特別な支援を必要とする子が多い。
- 家庭環境や生徒指導上で配慮の必要な子がいる。

一人一人に人間力を培うために

教職員の現状と課題

- 個々の教職員の力量を生かした高め合う組織
- 教職員全員で確立された協働体制(チーム学校)
- 教員に求められる資質や能力
 - ①教育の専門家としての確かな力量
 - 学習指導力・児童理解や生徒指導力・学級経営力
- ②教職に対する強い情熱
- 使命感と誇り、愛情、学び続ける向上心
- ③総合的な人間力
- 人間性や社会性、人間関係調整力、コミュニケーション力
- 教員の多忙感
- 小学校担任教員の過労の実態、時間外勤務の増加等、保護者対応、出張・研修等
- ウェルビーイングの向上

より高い教師力を求めて

家庭・地域の現状と課題

- 家庭と学校との連携・協力の充実へ
- 地域と学校として様々な支援
- 家庭教育の充実に向けての共有・分担の推進
- 基本的な生活習慣の定着
- 学習習慣の継続
- 遊び方のルール
- 子どもの前向きな姿勢や自立への支援
- 家庭の価値観の多様化、ニーズへの対応
- 学校への要望の整理(役割分担と共通理解)
- 子どもの人権に対する共通理解と協働体制
- 少子化・高齢化・核家族化に対する関わりの充実
- 関係機関・団体との連携・協力体制の充実・推進
- 地域力の向上、学校を核としたつながりの推進
- 将来につながる郷土愛・地域愛の育成

家庭力・地域力とともに

文科省・県教委からの要請

- 文部科学省 教育課程編成の基本方針
 - ・教育基本法等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」の育成と「社会に開かれた教育課程」を重視すること
 - ・知識・技能の習得と思考力・判断力等育成のバランスを重視すること
 - ・道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること
- 「徳島県教育振興計画」(令和5年度から8年度まで)
 - ・ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・ポジティブ行動支援のさらなる展開
- 徳島市教育委員会基本方針
 - 変革の時代、新しい教育の創造を踏まえた中・長期的展望に立ち、めざすべき教育の実現に向かい、市民のニーズに対応した活力と潤いのある教育文化環境の整備に、主体的かつ積極的に取り組む。特に、人間尊重の理念に基づき、豊かな人間性と社会性を備えた、心身ともに健康で文化的な市民の育成をめざした教育施策を一層推進する。

学校教育目標

人権尊重を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、
たくましく生きる児童を育てる。

～ 夢と思いやりの心を持ち、自主自立の精神で、自己の生き方を創造する児童の育成 ～

子ども像

- ・よく考え行動する子
- ・なかよく助け合う子
- ・強くたくましい子

教職員像

- ・愛情をそそぐ教職員
- ・専門性を高める教職員
- ・信頼される教職員
- ・健康で協働する教職員

学校像

- ・あいさつの響き合う学校
- ・一人一人が大切にされる学校
- ・安全で美しい学校
- ・教職員の力が結集している学校

重点課題と重点目標

社会や地域からの要請

- 心と体のバランスのとれた子どもの育成
- 明るく元気に学校に通う子ども
- 重大事件につながらないための心の教育の充実・命の大切さ
- 学力向上の取り組みへの期待
- 基礎基本の徹底、個に応じた指導
- 将来、自分で道を切り開く自立の力の育成
- いじめ・自殺問題の解決
- 不登校(傾向)への対策
- 地域や保護者とともに歩む学校
- 情報発信と説明責任による深い連携づくり
- 子どもたちの安全確保
- 防災拠点としての学校
- 教職員の不祥事防止
- 様々な教育活動(体験活動)の展開を
環境教育 地域の伝統文化活動 等

経営の基本方針

- 子ども一人一人を大切にした教育を推進する。
 - ・日々の授業を大切にし、わかる授業を展開する。
- 教職員の研修を充実し、教職員の資質の向上に努める。
- 教職員の創意を活かし、「津田小ならではの」特色ある教育・学校づくりに努める。
- 全教職員が経営参画できる働きがいのある風通しのよい職場づくりに努める。
- 家庭・地域との連携を密にし、相互理解を深め、信頼関係と協力体制を築く。
- 学校評価をもとに、学校運営の改善を図る。

- 確かな学力の向上
 - ・ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点から授業改善を図り、自ら学び、考える力を育てる。
 - ・よくわかる授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。
 - ・表現力・コミュニケーション能力を育てる。
 - ・読書活動を一層推進する。
 - ・生活体験・自然体験等の機会を増やし、主体性や社会性を養う。

- 豊かな人間性の育成
 - ・学級経営を基盤とし、子どもを認め、やる気を引き出し、自己肯定感を高めていく「ポジティブ行動支援」を推進する。
 - ・児童自らが課題に取り組み、ともに考え生きようとする道徳教育を推進する。
 - ・互いの人権を尊重し、日常生活の中での人権にかかわる問題を解決しようとする実践力を育てる。
 - ・人権教育計画の改善を図り、差別解消に主体的に取り組む人権学習の実践と評価に努める。
 - ・自他のよさに気付き、安心して学び合える仲間づくりに努める。

- 健康・体力の増進
 - ・一人一人に応じた体力・運動能力を高める体育の授業を行う。
 - ・各種運動を通して、運動に親しみ、運動習慣の確立を図る。
 - ・健康教育を推進し、望ましい生活習慣の定着を図る。
 - ・学校保健を充実させ、食育を推進する。

- 一人一人を大切にした指導
 - ・家庭との信頼関係を大切にし、一人一人の児童の実態を把握する。
 - ・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実させる。
 - ・特別な支援を必要とする児童に対し、教育的ニーズに応じた適切な指導および必要な支援の充実に努める。
 - ・病気・けが・アレルギー等への対応策を全教職員で共有する。

- 安全・安心な学校
 - ・安全教育、校内外安全管理を徹底し、事故防止と生命尊重の精神を養う。
 - ・防災意識を高め、被災時の対応等の危機管理に努める。
 - ・安全で美しい学校環境整備に努める。

- 社会の変化に対応した教育の推進
 - ・GIGA スクール構想のもと、一人一台タブレット端末を有効に活用し、確かな学力を育成する。
 - ・交流や体験活動等を重視し、自ら考え行動するキャリア教育を推進する。
 - ・異文化体験等に意欲的に取り組むことを通して、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えを表現できる基礎的な力を育成する。

- コミュニティ・スクール「地域とともにある学校づくり」の推進
 - ・家庭や地域に情報を発信し、互いに協力できるようにする。
 - ・行政機関等と連携し、課題の共有を図り、迅速に対応する。
 - ・家庭や地域との連携を図り、休日や登下校時の安全確保に努める。
 - ・家庭や地域との連携を密にし、いじめ、不登校等の問題解決に努める。